

「あたたかい世界」

犬山市立南部中学校 一年

西尾 遙真

僕は、世の中にはたくさん困っている人がいると思っ  
ています。障害の人、病気の人それぞれいます。弟は皮フの  
病気です。初めて会う子がいる時はドキドキしていました。  
弟は、見てわかる病気なので新しい子には

「その手どうしたの？だいじょうぶ？」

と言われたりしました。弟は、すごく悲しんでいました。  
しかしお母さんが、

「うつらない病気だからだいじょうぶだよ」

とみんなに話してくれて、弟の同級生も病気の事を理解して  
くれてたくさん友達と遊んだりしています。困った時もサポ  
ートしてくれる友達もいて兄としてわかり合える友達がいて  
心強いです。弟は、来年中学生になります。新しい人達との  
出会いがあります。とても楽しみです。

次は障害者について考えました。世界には目の不自由な人、  
足の不自由な人、耳の不自由な人色々な病気の方がいます。

僕は、学校で手話を学びました。例えば、目の不自由な  
人が道路を渡る時、

「今、青なので一緒に行きましょう」

と言います。相手もサポートしてくれる人がいると安心  
します。相手も笑顔になります。耳の不自由な人は、困っ  
ている様子なら手話や紙に書いて言葉を伝えたり出来ま  
す。

次に障害者への差別について考えました。病気の子に  
対して無視したりその子だけが嫌な思いをする事がありま  
す。病気をみんなが受け入れたりすれば障害者の人達も元  
気になります。みんなが仲良くすればたくさんさんの出  
会いとふれ合いが増え笑顔が世の中いっぱいになります。  
人に嫌な事をすれば、自分に返ってきます。差別のない  
国なってほしいです。健常者、障害者に関係なく困って  
いる人がいたら助ける当たり前の中が僕の理想です。弟を  
通じて障害を学んだので役に立ってる人になっていきたい  
と思います。

弟は、僕にとってとても大切な人です。家族であり  
友達です。ケンカもするけど、ずっと見守ってい  
こうと思います。